

## 第2回「オール埼玉医大 研究の日」開催報告

村上 孝

(医学部 微生物学)

2021年11月6日(土)、第2回「オール埼玉医大 研究の日」(以下、「研究の日」)が開催されました。昨年につづき新型コロナウイルス対策下での開催となりました。この「研究の日」の原点は、もともとは本学の教職員・学生の相互交流から全員のオール埼玉医大体制を整備し、新たな飛躍を願って企画されました。感染対策を優先し、次世代の研究を担う人材への研究マインド育成と本学を代表する研究を紹介するに留めざるを得ませんでした。しかし、今年度は昨年よりも学生からの発表数も増え、一般発表やフラッシュトークなど、賑やかな会になりました。特別講演の前半部分では、免疫学的な自己・非自己認識分子(MHC)が発達過程の神経回路をチューニングする仕組みについての興味深い話題がありました(特別講演1)。その後半部分では、超高齢化の社会的現実から健康維持をいかに啓発したらよいか、「研究の緻密な初期設計」に基づいた優れた

取り組みを紹介していただきました(特別講演2)。コロナ禍にあっても課外時間を使って研究の灯火を絶やさず続けてくれた学生と先生方には改めて敬意と感謝を表したいと思います。

この「研究の日」の発表内容は学部学生に対する研究マインド醸成の一環として、医学部2学生には録画視聴を義務付けています。この特集では当日のプログラムと特別講演2件の内容に加え、医学部2学生から提出された感想文の中から選ばれた4件をご紹介します。

本学も来年には50周年という節目を迎えます。研究面で本学の伝統を一層強化し、私たち自身の手でアップデートしていくことで本学の大きな発展の姿があると感じています。「研究の日」がそのようなきっかけになることを期待しています。